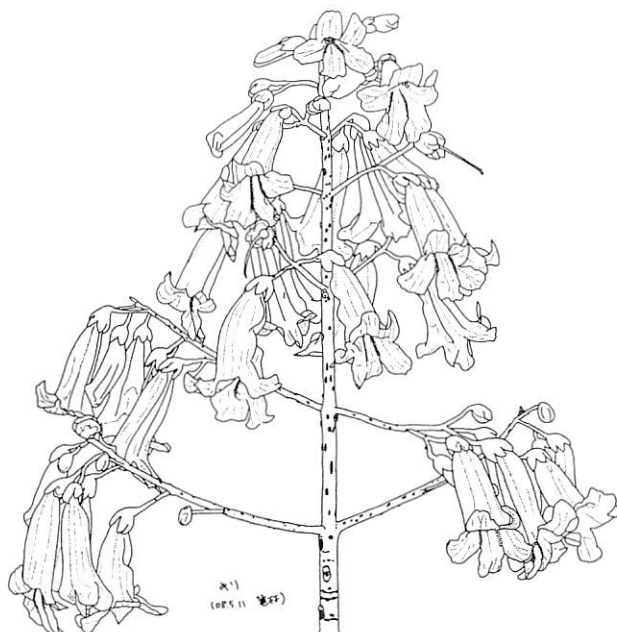


協議会ニュース 128号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2010.5



イラスト：(岡田慶範／西三河支部)

会長あいさつ	P2
総会報告	P3
講演会レポート	名古屋支部 岡田雅子P4
保険について	P5
支部総会報告	名古屋支部 滝田久憲P6
〃	西三河支部 三田孝P7
〃	知多支部 永田孝P7
会員のページ	名古屋支部 柴田美子P8
〃	知多支部 竹内秀代P9
理事会報告	P10
事務局より	P11
行事案内・編集部	P12

平成 22 年度

年度始めにあたって

= 会長挨拶 =

愛知県自然観察指導員協議会

会長 松尾 初

COP10 開催 = 名古屋 =

生物多様性条約締約国会議COP10が、今年2010年に愛知県で開催されます。この生物多様性条約は、30年前頃から地球が宇宙船地球号とも言われはじめ、資源は無限ではなく、人間にとって良好な環境の維持機能には限界があるのだという概念が一般にも浸透し始めた1992年の地球サミットで採択された条約の一つです。ただ、この条約と同時に採択された気候変動枠組条約（地球温暖化）のことはマスコミで大きく取り上げられ、一般の方々や経済界では地球環境問題イコール地球温暖化の防止（CO₂の削減）としてとらえられています。一方でこの生物多様性条約締約国会議COP10が盛り上がり欠けているのは大変残念なことです。



「生物多様性」と私たちの活動

これは、私たち自然観察指導員は自然の大切さを「自然観察」を通して伝えてきましたが、まだ充分伝え切れていないことを物語っています。その原因の一つとして考えられるのは、生物多様性の危機が私たちの生活とどのように関わっているかを伝えてこなかったからだと思われます。生物多様性が損なわれるとどのような事態になるのかはまだ充分明らかにされていませんが、地球温暖化のように肌身に感じる事例を見つけ自然観察の中で伝えていくことが必要ではないでしょうか。

愛知県自然観察指導員連絡協議会も30周年を迎え、生物多様性条約締約国会議COP10を一つの機会として捉え、私たちの活動そのものである自然の大切さ（生物多様性の大切さ）の伝え方を考えていきたいと思います。みなさんのご協力をお願いします。

平成 22 年度通常総会

日時 平成 22 年 3 月 22 日(月・祝)

場所 愛知県勤労会館(つるまいプラザ)

■開会 松尾会長の挨拶に続き、総会の議長に降幡副会長を選出し、議案の審議が進められました。

■第 1 号議案 平成 21 年度事業報告

浅井事務局長から総会資料にもとづき事業報告がなされ、承認されました。

■第 2 号議案 平成 21 年度決算・監査報告

石田会計から総会資料に基づき決算報告がなされ、榊原監事から監査報告があり、適正に処理がされていたが、一部領収書がなく見込みで計上されていたので、来年度は領収書のある分のみで決算をするようにという意見が付託されて承認されました。

■第 3 号議案 平成 22 年度役員改選

会長：松尾初(尾張) 副会長：降幡光宏(知多)・大谷敏和(尾張)

事務局：浅井聡司(名古屋) 会計：石田晴子(名古屋)

編集：近藤記巳子(名古屋) HP：永田孝(知多)

保険：布目均(名古屋) COP10：吉田雅紀(尾張)、石川正雄(西三河)

調査：瀧崎吉伸(東三河) 名簿：森田琢磨(知多)

事務局補佐：石原則義(名古屋) 会計補佐：辻愛子(尾張)

支部長：滝田久憲(名古屋) 齋竹善行(尾張) 降幡光宏(知多)

三田孝(西三河) 星野芳彦(東三河) 小山舜二(奥三河)

監事：榊原靖(知多) 河江喜久代(西三河)

以上のみなさんが承認されました。

■第 4 号議案 平成 22 年度事業計画

浅井事務局長から総会資料に基づき事業計画案が提案され、承認されました。

■第 5 号議案 平成 22 年度予算案

浅井事務局長から総会資料に基づき予算案が提案され、承認されました。

■質疑応答

総会が速やかに進行したため、意見交換などが行われました。

◎会員より、所属の観察会開催のシンポジウム後援のお礼。

Q. 会員より「平針里山の自然と保全について」会としての見解への質問。

A. 会から回答。

■閉会

<< 総会終了後講演会開催 >>

講演会「愛知県のほ乳類—その生物多様性と特定鳥獣保護管理計画について」

愛知学院大学 講師 子安 和宏 氏

※総会終了後、有志による懇親会が行われました。

(記録：布目、大谷)

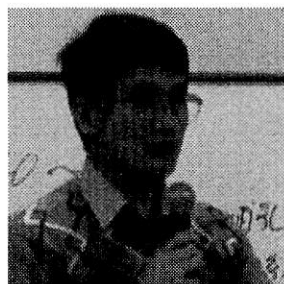
子安 和弘氏 講演

「愛知県の哺乳類―

その生物多様性と特定鳥獣保護管理計画について」を聞いて

名古屋支部 岡田 雅子

講師の子安和弘氏は愛知学院大学歯学部解剖学第二講座に所属し、哺乳類咀嚼器官の形態・発生・進化を研究テーマとされている。趣味がアニマルトラッキングというだけに、講演の内容は豊富なフィールドワークに裏打ちされていることが随所にうかがわれるものだった。写真やグラフ、地図を用いての講演はわかりやすく、またどこかで見たことがある身近な哺乳類が取り上げられていて興味深いものであった。



さて「愛知県にはいったい何種類の哺乳類がいるだろうか？」と冒頭に尋ねられて戸惑ってしまった。その答えは地上の動物はもとより、空を飛ぶコウモリ、地中のモグラ、海辺に漂着したスナメリも含めて71種類になるそうである。このなかからコウモリ、モグラ、クマ、ムササビ、スナメリ、カモシカ、ニホンジカ、イノシシ、ヤマネ、タヌキ、キツネそして増加している外来種の動物たちについてお話していただいた。

興味深かったのは、モグラの穴の大きさで種類がわかる話。指2本分の幅なら、体の幅が狭いアズマモグラで指3本分ならコウベモグラだという。しかし名古屋市内でコウベモグラを見ることはないそうだ。

また愛知県北東部で捕獲されるクマが増えているが、そのほとんどが3歳のオスだということ。

また問題点として指摘されたのは以下の二つである。一つは瀬戸、新城で見られる白化したイノシシである。イノシシと飼育されていたブタが逃げ出したものとの交配種ではないかという。アルビノではないそうだ。こういう新しい種(?)が増えると生物界にどのような影響が及んでいくのだろうか、と考えてしまう。

二つめは外来種の増加である。ネズミ目のヌートリアは南米産であるが、原産地のブラジルでは日本と逆に絶滅危惧種の扱いだという。また最初はペットとして持ち込まれたのだろうが、その後野生化しているハクビシンやアライグマは名古屋市内で生息域が広がっているそうだ。魚のブルーギルやブラックバスと同様な事態が懸念される。私事ではあるが、私の住む守山区では近所にアライグマが出没し、町内会で名古屋市緑政土木局から檻を借りて捕獲したことがあるので他人事とは思えない話だった。

一方日本在来タヌキが最近山ではなく都市の市街地で生息している話や、イギリスのキツネにも農村型と都会型がいるという話を聞くと、私は動物たちにたくましさを感じてしまう。環境の変化に適応して生き抜いていく強さは、わが家のペランダの餌台にけたたましい鳴き声でやって来るヒヨドリにも共通しているなあと、鳥類にまで思いが飛んでいった。

私自身は自然を見ていると定点観察できる植物に目が行きがちであるが、この講演によって動物への興味と関心を引き出していただいたように思う。

平成 22 年度 自然観察会のレクリエーション傷害保険について

保険担当理事 布目均

1 自然観察会のレクリエーション保険の主旨

自然観察指導員は、NACS-J の「自然観察指導員災害保障制度」で、活動中の傷害事故に対し保障がされる仕組みができています。しかし、自然観察会参加者はこの制度の対象とはなっていません。観察会ごとに対応することとなりますが、事務手続きが大変です。そこで県協議会では、次のようなレクリエーション傷害保険を県協議会で包括契約しています。事務が比較的簡素化されて万が一の事故に備えることができますので、ご利用ください。

2 県協議会では自然観察会のレクリエーション傷害保険を昨年度も実施しており、事務手続きは同じで、1日1人あたりの保険料は40円です。

3 保険の内容

◇保険種類：普通傷害保険（行事参加者の傷害危険担保特約付普通傷害保険）

◇契約方式：レクリエーション傷害保険（行事種目 自然観察会およびクラフト教室など）

◇保険金額：（一人あたり）死亡・後遺障害 600万円 入院保険日額 5000円
通院保険日額 3000円

◇保険期間：平成22年4月1日～平成23年3月31日 一年間

◇精算方式：包括契約 ・ 毎月報告一括精算

◇被保険者：愛知県自然観察指導員連絡協議会が実施する自然観察会およびクラフト教室など備え付け名簿記載の者すべて

※保険の範囲：自然観察会に参加するため所定の場所に集合し、参加者名簿記載から所定の解散地で解散するまでの、責任者の管理下にある期間

※保険の対象者：自然観察会の一般の参加者とするが、指導員を含めても差し支えない。含める場合、参加者名簿（保険対象）に加えて毎月報告が必要。参加者名簿は事故があった場合提出することになるので、少なくとも氏名と住所と電話番号が必要。

（NACS-Jの指導員の保険は死亡保険金500万円、入院保険日額3500円、通院保険日額2000円ですので、指導員もこの保険に含めるかどうかは各観察会でお決めください。）

※対象となる事故：保険の対象は「自然観察会およびクラフト教室などの傷害」であり、有毒植物の誤飲や鋸・鎌を使つての作業中の事故、山岳登山はレクリエーション保険の対象外。また熱中症など病気と思われるものは含まない。不明な点は保険担当にご相談を。

4 参加者数の報告と精算：毎月、保険対象参加者数を翌月10日までに、E-Mail またはFAXでご連絡ください。保険対象外の指導員の数は、備考欄へ記入ください。

4月から来年3月までの保険対象参加者数を集計して×@40円をお振込みください。

郵便振替口座 00820-9-6546（愛知県自然観察指導員連絡協議会）

連絡先 保険担当理事 布目 均

E-Mail n-1104@yk.commufa.jp Tel&Fax 052-771-0396

5 事故の場合の事務：事故が起きた場合は翌日までに布目まで状況をお知らせください。

・ケガをされた方（受傷者）の氏名、住所、電話番号、日中の連絡先、生年月日、性別

・事故日時と状況：事故日、何時何分ごろ、事故場所、どこをケガしたかなど。

参加者名簿（受傷者が当日の観察会の参加者であることを示す）をご提出ください。

布目と連絡がとれない場合、下記保険代理店へ連絡いただいても結構ですが、後日布目までお知らせください。

保険代理店 ㈱ポッカオフィスブレイン 052-252-7331

保険金は治療終了後受傷者が所定の用紙で申告し、指定の口座に振込まれます。

健康保険などは使用した方が有利です。

※保険金が支払われるとしても、被害者への対応は誠意を持って適切に行ってください。

名古屋支部 総会

名古屋支部 滝田 久憲

平成22年度名古屋支部総会が2月28日(日)午後2時から、なごやボランティア・NPOセンターの研修室において、会員23名の参加で開催されました。支部長のあいさつの後、萩原さんを議長に選出し、議事が進められました。

最初に平成21年度の事業報告がなされ、COP10前年ということで、それを意識したいくつかの事業や各種催事への参加が報告されました。続いて、会計報告がなされ、繰越金の一部を設立30周年事業の積立金にあてたことなどが報告されました。

また今年度は役員の改選期でなかったのですが、役員の紹介が行われました。

続いて、平成22年度の事業計画が説明されました。従前の市内11箇所での定例観察会やなごや自然教室の他に行政などとのいくつかの協働事業が提案されました。また、これらの事業を実施するための事業予算が説明され、共に了承されました。今年は10月に名古屋市で生物多様性条約締結国会議が実施されます。そこで、自然観察会や幼稚園などで実施している環境サポーター事業の中で、これまで以上に生物多様性の大切さなどを伝える内容にする事などが話し合われました。

昨年末に愛知県やその近隣で開催された指導員講習会を受講し晴れて指導員となった方8名が名古屋支部に入会されました。また、今年に入って2名の新しい仲間も増えました。そこで支部ではこうした新会員が一步でも前に踏み出せるように後押しをするとともに、こうした新しいエネルギーを会の活動に取り込みながら、今年度の課題に取り組むことが確認されました。



平成22年度役員

支部長 滝田久憲

副支部長 石原 則義
高松 一史
萩原 育夫

大澤 淳二
滝川 正子
幅 賢治

近藤 記巳子
滝田 久憲
堀田 守

佐藤 国彦
布目 均

事務局長 佐藤 国彦
会計 中西 倜夫

西三河支部総会

西三河支部 三田 孝

日 時：平成 22 年 2 月 6 日(土) 14：00～17：00

場 所：安城市民会館

平成 22 年度の支部総会は会員 17 名の参加を得て開かれました。平成 21 年度行事報告、会計報告のあと、平成 22 年度役員の選出、活動計画の検討を行いました。役員はほぼ留任（会長：三田 副会長：奥居 事務局：深見 広報：石川 監査：山原 幹事：伊東・石黒・馬場・柵木・水谷・山下・河江）です。

新年度の観察会については支部定例観察会（同一場所で行う観察会）が復活し、刈谷亀城公園で年 4 回実施します。西三河各地を巡る支部主催観察会は 4 月松平郷（豊田）、矢作橋（岡崎）、6 月昭和の森（豊田）、11 月面ノ木（豊田）の 4 回を企画しました。会員が独自に主催する地域定例観察会は 6 ヶ所の観察会（くらがり溪谷、おかざき自然体験の森 自然観察会、おかざき自然体験の森 植物観察会、岡崎中央総合公園自然観察の里、平戸橋、豊田若林）が継続されます。16 年間続いた境川自然観察会は残念ながら終了することになりました。会員研修会は 9 月に知多支部と合同で行うこととなりました。

総会議事が長引き、後半に予定されていた中西先生の講話の時間がなくなり残念でした。

その後安城駅近くで懇親会を持ち、交流を深めました。

なお、観察会の詳細はホームページ（www.nishimikawa.com）をご覧ください。

知多支部総会

知多支部 永田 孝

平成 22 年度の支部総会は、2 月 14 日（日）知多市体育館大会議室で 45 名の会員が参加して行われた。出席者自己紹介のあと事業報告、県に関係した事業報告、知多半島 10 市町ごとの報告などが年報を見ながら各担当者から行われた。

続いて役員会報告、会計報告、役員や係の分担、次年度の事業計画が確認、報告された。

このうち役員会報告では①NPO 化・COP10 への取り組み・本会の発足 30 周年記念のそれぞれに関わる 3 部会での審議状況の報告、②委託事業の委託費の取り扱いについて、③あいち森と緑づくり事業への取り組み等々の報告がなされ、次年度も月 1 回のペースで役員会を開き、これらに関する審議を継続していくことが確認された。

話し合いのあとは恒例の昼食会。お酒の力も借りてなごやかなムードのなか、あちこちにできた車座では、持ち寄った資料をもとに情報の交換をする姿が見られた。

なお今年度の役員は次のとおり。

代表：降幡光宏、
榊原正躬（年報・Web 担当）
会計：牧野靖子、

副代表：榊原靖（研修担当）、
庶務：南川睦夫（副代表兼務）、
調査担当：大嶋洋平・浅井一光

自然観察指導員 女性シリーズ その①

冊子「いい人 見つけた！～環境に関する女性のチャレンジ事例集～」は、県内で活動する 49 名の女性が、活動の動機やスキルアップ法を各人各様に綴ったもので、これから何かにチャレンジしたいと思っている女性へのメッセージとなっています。

当会からは 4 名の自然観察指導員の活動が紹介されています。今月号からシリーズものとして 3 回にわたって掲載します。尚、冊子は愛知県チャレンジ女性応援モデル事業委託団体によって作成されました。



柴田 美子

自然観察指導員

「水源と八竜湿地を守る会」代表
名古屋守山区環境審議委員

1995 年から毎月 1 回、名古屋市守山区の八竜湿地を中心に自然観察会及び保全作業を行うとともに、地元小学校や生涯学習センターの講師を務める。県の嘱託を受け、小幡緑地の湿地再生作業の指導。

1. 環境に関する活動にチャレンジした動機・きっかけ

1970 年代後半、猿害で日本各地から捕獲された何百匹ものニホンザルが、日本モンキーセンターへ運び込まれている現実に出会いショックを受け、自然環境に興味を持ちました。勉強会を立ち上げ 8 名ほどで「自然学の展開」（今西錦司著）をはじめ各自が選定した参考書をもとに月 1 回の勉強会を開き、にニホンザルの棲息地へ出かけたりしていました。その時自然観察指導員の講習会があることを知りました。講習会后、市内各地の自然観察会に参加していましたが、植物や昆虫の名前を覚えたり、単に見るのみに飽

きたらず、東海地方の湿地の重要性に気づき、1995 年から現在行っている水源の森と八竜湿地を守る会（当時は大森湿地を守る会）にかかわるようになりました。会員としてかかわったものの、発足当時のメンバーが 3 年の間に仕事の都合で相次いでやめられてしまいました。その後、会の活動を引き受けざるを得なくなり、現在に至っています。

2. どのようにスキルアップしたか

里山の生態学から、湿地関係、植物群落の保護、外来種についてなどの参考書を読み漁る一方、県内、県外の湿地を足繁く歩いています。わからないことがあればその都度、専門家を訪ねて意見を請うなど、試行錯誤の連続です。がしかし、長年ひとつのフィールドで続けることによって、自然環境は自然が教えてくれることもわかってきました。

3. これからチャレンジする女性へのアドバイス

知識も欠かせませんが、自然のなかに出かけて自然環境を知ることです。自分が何かをするということではなく、自然が教えてくれることを信じるとともに、人間以外の生命を思いやる気持ちを持つことが大切ではないでしょうか。

自然観察指導員 女性シリーズ その②



竹内 秀代

自然観察指導員
地域環境保全委員
小学校教員

自然の楽しさを地域の人や子どもたちに知らせたいと、自然観察指導員の仲間たちと一緒に毎週土日、知多半島5市5町のどこかで自然観察会を行っている。

1. 環境に関する活動にチャレンジした 動機・きっかけ

野山の動植物のことをよく知っていていろいろ教えてくれた祖父の影響で、自然大好き、野山大好きではあったけれど、周りにそんな友達はいなかった学生時代。なんだか疲れると田んぼや畑で仕事をしている祖父のところで稲の揺れているのを見てホッとしました。



そんな時ふと目にした新聞記事「自然観察指導員講習会を犬山で行う！」すぐに募集の封筒を送りめでたく参加できた。まわりは若い人はあまりいなかったけれど「自然の大好きな人たちでいっぱい」だった。講習を受けた人たちに声をかけられ、観察会のお手伝いやパンフレット作りをしたり、自分たちで観察講習会を開いて知らないことをいっぱい教わったりした。

途中、結婚や出産もあり活動からしば

らく遠のいていた時期もあったが、指導員の講習会を受けてから早や30年近くたってしまった。

2. どのようにスキルアップしたか

自然は好きではあったが自分の知っていることはほんのわずかだと改めて感じた。参加できる観察会にはできるだけ参加し、図鑑を調べたりノートに記録したりして少しでも記憶に残るようにした。

また、興味を持ったことは本やインターネットで調べ、おもしろいと思ったことは観察会や職場でどんどん話すようにしてきた。ひとつのことを深く掘り下げることはなかなかできないが、広く浅くいろいろなことに興味をもって観察会に参加している。どの観察会でも毎回「発見」があって楽しくてしかたがない。

3. これからチャレンジする女性への アドバイス

少し前までは、よちよち歩きの息子や娘をおんぶしたりだっこしたりして、時にはどろんこになって参加していた観察会も、このごろは「ひとり」で参加することが多くなってしまった。観察会で子育てをしていたのかもしれない。いつの間にか自然観察指導員の活動が「趣味？」になりつつある。

興味をもった「今」が旬。参加してみると、大変だと思っていたことが大変どころか楽しさに変わり、エネルギーになっていることがある。

まずは地域の活動(観察会)に足を運んでみてはいかが？



第 1 回理事会

日 時 : 平成22年3月22日(月・祝) 午前10時~12時30分

場 所 : 愛知県勤労会館(つるまいプラザ)

出席者: 松尾 降旗、浅井、石田、永田、大谷、吉田、布目、近藤、滝田、齋竹、
三田、梶野、小山、山下、吉田、河江、辻、石川

記録: 大谷

議事

- 1 平成 21 年度の事業報告について確認を行った。
- 2 監査報告
「領収証のあるものだけで会計を締めて下さい。」と監査の指摘あり。
(平成 21 年度収支決算報告書は総会資料参照)
- 3 役員改選
- 4 平成 22 年度の活動予定の確認を行った。
 - ・あいちの自然観察は「なごや環境大学」の講座として実施。(担当: 滝田)
参加費の問題について議論あり
 - ・研修会
各担当者は協力して場所・時間などを速やかに情報提供するよう努める。
 - ・全国一斉自然観察会(5月22日国際生物多様性の日、6月5日環境の日に合わせて)
が「自然保護」に掲載されるので、訂正に間に合わなかったら、協議会として対
応していく。5月30日知多支部から応援の手があがった。
 - ・COP10 開催イベント・・・10月9~11日(土~月) 愛・地球博公園
イベントは自分たちで企画するのが趣旨。自主的に動く。
補助金 73,053 円は、理事会の時に各支部に 10,000 円を手渡しする。
 - ・フォローアップ研修会
場所: 東三河支部エリア
日時: 第1候補日1月29・30日 第2候補日1月8・9日
テーマ 「生物多様性」環境調査センターと調整
※機関誌8月号(8/1発行予定)にて日時他を掲載予定
 - ・協議会の日 12月23日 尾張支部・名古屋支部合同研修会の日
 - ・協議会ニュース 5月、8月、12月、3月の年4回発行
 - ・理事会開催日程
第1回 3月22日 愛知県勤労会館 総会議事の確認、活動計画と予算案
第2回 5月5日 知多支部の会場 COP10 イベントの企画・観察会・調査
第3回 9月23日 西三河支部の会場 COP10 イベントの運営、
COP10 観察会のまとめ
第4回 11月23日 尾張支部の会場 活動報告のまとめ、支部総会について
第5回 2月11日 名古屋支部の会場活動計画、新年度に向けての役員体制
- 5 平成 22 年度の予算案についての確認を行った。
(平成 22 年度予算案は総会資料参照)

<< 事務局より >>

■総会の議案書について

平成22年度総会の議案書に誤り及び追加がありましたので、下記の通りお知らせします。
加筆修正をお願いします。

第1号議案(活動報告)

1. あいちの自然観察会

◇6月7日(日)参加者50名

◇6月14日(日)参加者20名

2. 研修会

◇6月28日(日)参加者6名

◇8月30日(日)参加者20名

◇9月5日(土)参加者10名

6. 機関誌発行

5月、8月、12月、3月の年4回発行

9. 11月29日 協議会の日

葦毛湿原・岩屋緑地

会員30名、一般30名参加

10. COP10開催記念自然観察会

第2号議案(会計報告)

監事の山下・榊原両理事で監査。

第3号議案(役員改選)

役員改選で、役員の担当と補充についての修正。

近藤記巳子(編集)、石原則義(事務局補佐)、

吉田雅紀(COP10担当)、辻愛子(会計補佐)、

石川正雄(COP10担当)、河江喜久代(監査)、

星野芳彦(東三河支部長)、瀧崎吉伸(調査)

編集担当は、原稿依頼と編集。

事務局は、印刷・発送などの手配。

発送担当は、岩沙、横井両会員。

第4号議案(活動予定)

1. 自然観察会

◇8月22日(日)担当者 岩崎員郎

2. 研修会

◇12月23日(木祝)場所 犬山市

3. 全国一斉自然観察会

◇西三河支部担当の観察会

5月30日(日)から6月5日(土)に変更

自然保護協会の普及部への変更連絡済。

「自然保護」の掲載可。

◇COP10開催記念観察会へ、COP10支援実行委員会

事務局より、73053円の事務費が計上され

た。よって各支部に1万円の経費を理事会の時

に手渡し予定。

5. フォローアップ研修会

◇東三河支部の地域

第1希望 1月29・30日の予定、

第2希望 1月8・9日

テーマ 「生物多様性」

(環境調査センターと調整)

6. 協議会の日

12月23日

尾張支部名古屋支部合同研修日に設定。

7. 協議会ニュースの発行

3月、5月、8月、12月の年4回発行

8. 理事会

第1回 3月22日

第2回 5月5日 名古屋支部

第3回 9月23日 西三河支部

第4回 11月23日 尾張支部か知多支部

第5回 2月11日 名古屋支部で開催

9. 総会・講演会

平成23年3月21日(場所、詳細、未定)

■発行 =海上の森ガイドブック=

愛知県からの受託事業「海上の森 冬の自然観察ガイドブック」と「海上の森 春の自然観察ガイドブック」が当会会員により完成しました。

全会員に配布のため愛知県より購入し、今回の機関紙送付と同時に送付します。

自然観察には、快適な季節となりましたので充分な活用をしてください。

(事務局 浅井)

<< 行事案内 >>

■全国一斉観察会（5/22 国際生物多様性の日、6/5 環境の日に合わせて開催）

日 時	集 合 場 所	テ ー マ	支 部 担 当
5/5(水・祝) 10:00-12:00	地下鉄名古屋大学駅 ②番出入口前	初夏の樹木の花々 ナンジャモンジャを見よう	名古屋
5/16(日) 10:00-15:00	海上の森駐車場 9:30 までに集合	初夏の花を求めて	尾張
6/5(土) 9:00-12:00	昭和の森 第5駐車場 9:00 集合	新緑の里山の自然観察	西三河
6/6(日) 9:30-12:00	正宗寺 豊橋市嵩山町	初夏の生き物を観察しよう	東三河
6/12(土) 9:30-11:30	東浦町文化センター	明徳寺川の中をのぞいてみよう	知多

■研修会

- ◇日時 9月11、12日(土日) 知多支部と西三河支部の合同研修会
 場所 美浜町富具崎、羽豆岬、野間内扇「義朝の森」
 テーマ 第1部 磯の生き物、ウバメガシ林(天然記念物)
 第2部 懇親会、夜間灯火採集、竹炭原料作(知多支部合同)



編 集 部 か ら

- 本号より編集部を担当することになりました名古屋支部の近藤です。あらためてよろしくお願いたします。
 ■本年度は、前年より1名少ないメンバーでのスタートとなりました。サポートしていただけの方を募っています。是非、連絡をください。
 ■「協議会ニュース」をより充実した情報紙とするためにみなさんから積極的な投稿をお待ちしています。本紙に望む企画や意見なども併せてどうぞ。

編集スタッフ

岡田 雅子 近藤 記巳子
 酒井 勇治 永田 孝
 山口 健

発送スタッフ

岩沙 雅代 横井 邦子

協議会ニュース編集部

〒457-0006
 名古屋市南区鳥栖 2-6-17
 桜本町 CH 101 近藤 記巳子
 TEL / FAX (052)822-7460

- 愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会） 事務局（当面）
 〒486-0904 春日井市宮町 3-6-2 松尾 初

Tel 0568-32-5069

- Web Page: <http://naichi.net/>

- 郵便振替口座: 00820-9-6546 (名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会)